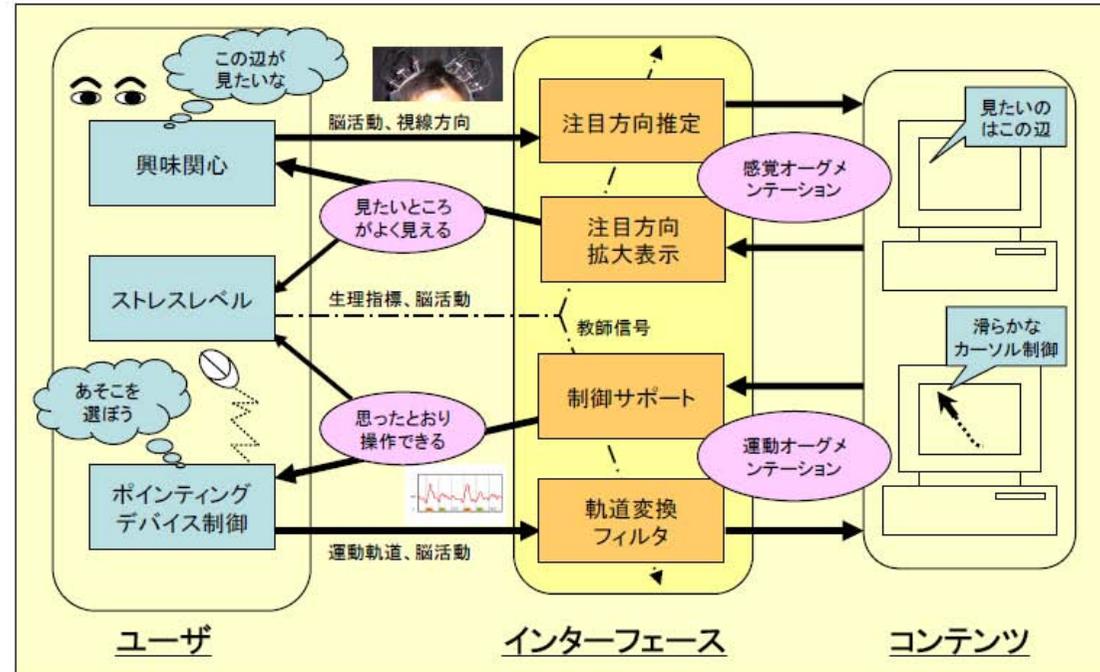


## 高齢者のストレス・ネットワークアクセスを実現する感覚運動オーグメンテーション技術の研究開発

**研究目的** 感覚運動器官の衰えた高齢者が快適にコンピューターネットワークにアクセス出来るよう、脳活動をとらえる装置や手の動きなどをサポートする装置などを使って、「見たいところがよく見え、思った通りに操作できる」インターフェースを構築する手法を開発する。

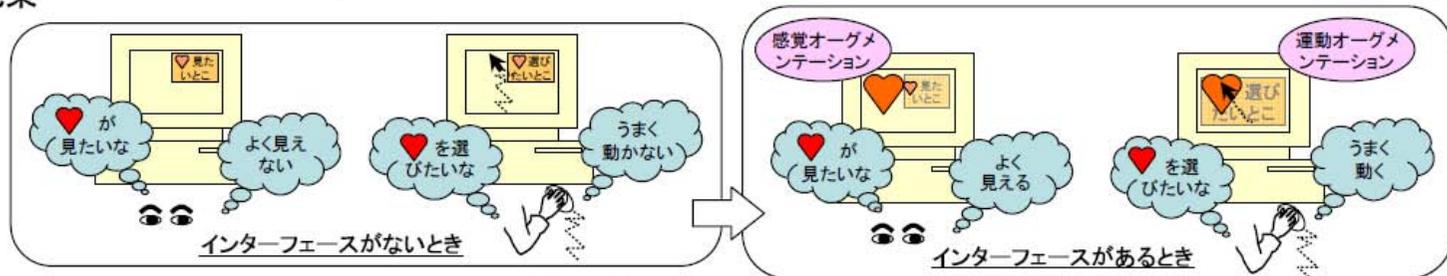
### 研究内容

- ・運動の情報や生理指標、脳活動等から注目方向やストレス度を推定する手法の開発
- ・興味関心やストレス度に応じた情報表示方法の開発
- ・疾患に応じて運動をサポートできるシステムの開発
- ・インターフェースプロトタイプ的设计



### 期待される研究成果

- ・高齢者がネットワークを快適に使えるようになり、デジタルデバイドの解消に貢献できる。



### 研究成果の社会的意義・社会への波及効果

- ・高齢者の知的好奇心や購買意欲を充足(情報格差の是正)
- ・適度な運動を課すことで介護予防を促進(活力ある高齢化社会へ)
- ・個人に適応した人に優しいインターフェース(ICT技術の浸透)